

いま、
あなたに
伝えたい

室井佑月さん

むろい ゆづき／作家。テレビやラジオのコメントーターとしても活躍中。著書に『この国は変わらないの?』（新日本出版）、『息子ってヤツは』（毎日新聞出版）、『ママの神様』（講談社）、『プチスト』（中央公論社）、『血い花^{あひ}』（集英社）ほか多数。



●メディアで発信する立場として

私の仕事は会社やお店とちがつて今、仕事がなくたって借金を抱えることはありません。その強みと、たとえばすごく平和なときに、自分が書いたものを読んでくれたり、見てくれる人が支えてくれたから私は親のことをきちんと見送ることも、子どもを育てることもできました。だから、自分の発言にはできるだけ正直でいたいと思っています。

ここ数年、テレビ番組の改編などで「長く続いたから」とはつきり言われないうまでも、番組を降ろされたり、社会問題や政治についておんなじような意見をもっていた人たちがどんどんテレビから消えていっています。

テレビでこう言えばうまくいくだろうというのはなんとなくわかるんです。テレビだつてつくっているのはおじさんだらけ。銀座のホステスをやってた経験で、テレビでもただ同調してにこにこしてんのが一番好かれるんだと思います。

でも、それってあまりよろしくないこととで。正直に大切だと思っていることを発言することで騒がれたり、「死ぬ」と人から言われたりしても、今まで支えて

第2回

自分の言葉に正直でいたい



くれた人たちのためにできるだけ正直な気持ちで発信したいと思っています。

私、「これをぜひ変えたい!」とか、実は別に言いたいことなんてないんですよ。仕事で聞かれるから答えるだけです。ただ、「これってどう思う?」って聞かれたら、それに対して正直に「これはおかしい」とかって言うけど。この国に対してこうなってるほしいという思いは、一人ひとり個人が、この国に生きる人だったらみんなが思っていることですよ。それとおんなじことしか私も思っていないですよ。

●戦争には反対です

人が絶対にやっちゃいけないことは戦争だと思います。2015年の安保法制反対のデモにも参加していました。デモ

に賛同するのは、その主張と自分の考えが同じで、今声をあげなきゃいけないと思ったから。何人集まったのか頭数が大事だから、そのなかの一人になりたい、一人でも多くと思って行くんだけど、スピーチをお願いされると本当に行きたくないなっちゃう。デモは自分が行きたいから行くんだけど、スピーチとか前に出るのって本当は苦手なんです。

昔からじいちゃん、ばあちゃんの戦争の話聞いていたし、戦争はダメという思いはもちろんずっともっています。息子には、人を殺したり、殺されたりすることは絶対にあつてはならないことなんだから、「戦争になったら逃げろ」ってちっちゃいころから言っていました。特攻隊の映画とか観てもね、死ぬようなこととはしないで（「戦闘機が」壊れたふり



して無人島に不時着、不時着」って横からささやいたりね。

もう二十歳になりますが、息子がまだ幼いころ、もしこの子が人生のどこかで「死ぬ」という選択肢をとったどうしようって思うと不安でしょうがありませんでした。だから、そこはながあつても徹底的に死なないように育ててきました。今はものを書く仕事をしていて言ってます。ということは、あと何回か死にたいくらい人に裏切られたりとか、大失敗しちゃったりとかっていう経験がないと、やっぱり人として小慣れないから、書いてるもんもつままないと思うけど、絶対に死なない。そうやって育ててきたから、そこは信用していますよ。